

上神明 天祖神社 報

第195号 平成26年9月1日



社頭所感

天祖神社宮司 齊藤泰之

― 例大祭を祝して ―

秋晴れの候、氏子崇敬者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当神社の維持運営にご理解、ご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、昨年は前宮司の許、当神社鎮座六百九十年、上下分村三百七十年を祝しての蛇窪大祭が盛大に執り行われました。当日は台風直撃の中にもかかわらず晴れ間が現れ、誠に奇跡的で神がかりなお祭りとなりました。境内では各町婦人部の皆様による演芸大会、小中学生による吹奏楽部の演奏等も行われて大勢の参詣者で賑わい、さらに隔年行われております連合渡御では、大人神輿五基の中に子供神輿二基も参加して賑やかな渡御が叶うようになりました。これらのお祭りでは大人はもちろんのこと、子供たちにも地元の人々の心意気を感じ、とても感銘を覚えました。

今年も連合渡御はございませんが、児童センターの子供たちによるダンスが新たに披露いただける運びです。

子供は地域、国の宝です。この地域は、お年寄りを敬い、伝統の担い手である次世代の子供たちを街ぐるみで大切に育てようとする、本来の日本人が持ち続けていた道徳秩序が今もなお根強く息づいております。神輿を担いだ子供たちは、先人が大切に守り伝えてきた祭りの楽しさ、伝統文化の素晴らしさを体感できると思えます。

今年もまた皆様と共に例大祭を斎行できるということも、国や地域が平和で安定している証でもあります。子供たちの未来のためにも皆様と共に手を携え、地域が元気になるよう微力ながら努力してまいりたいと存じます。

本年も何卒皆様のご理解、ご協力を賜り、恙無く実りある秋の祭礼が終えられますよう心よりお願い申し上げます。

蛇窪例大祭を迎えて

氏子総代会会長 草柳洋一

秋の例大祭を迎える候となりました。氏子の皆様には、日頃から何かと神社の行事にご協力いただきますこと、誠に有り難く、厚く御礼申し上げます。

夏のなごりの暑さは厳しいものの、夜風にあたり、虫の音を聞くと、秋が来ていることを感じます。今年も無事に、秋の例大祭が催しされますことを楽しく思います。厳肅な御霊入れに、五町会の勇壮華麗な神輿が境内にあつまるときは、神事の伝統行事の厳かさや日本文化の素晴らしさを深く感じます。先般、宮司様より配布されました「荏原区史」（昭和十八年発行）の一部コピーに「上神明の部」がありました。「総説」として、「上神明町は元上蛇窪と呼ばれていたが大東京市出現と同時に氏神神明社に因んで、上神明町と称する様になった。上蛇窪は昔は下蛇窪と一体をなして共に単に蛇窪と呼ばれていたが、正保年間（二百九十年前徳川家光の頃）上下両字に分離したのである。当時の正式な地名は武州荏原郡品川領上蛇窪村」とあります。蛇窪の地名が長い歴史として受け継がれ、白蛇神霊の所在地として残り、その地で例大祭を迎えることのできる御縁を大変有り難く思います。今年のお祭りは、宮司様が大変ご努力をされて、榎本香様の高額ご奉納金でつくられた、「くぼっち」と命名される、ご当地キャラクター人形が登場します。楽しいお祭りが繰り広げられることを心から望んでいます。氏子の皆様のご清祥を祈念申し上げます。

例大祭行事日程

九月十二日(金)午後九時
十三日(土)午前中

午後三時

神輿神霊遷し
五町会神酒所祓
大原児童センター

午後三時二十分

ダンスサークル
「スパイラル」
富士見台児童センター
インラインスケート

午後四時
午後七時

サークル
「オーキッツ」
富士見台中吹奏楽部
奉納演芸大会

十四日(日)午前十時三十分
午後三時三十分
午後四時

例大祭式典執行
上神明小学校鼓笛隊
富士見台児童センター
ヒップホップダンス

午後五時

「KAMISHINDAN」
「Gosuraight」
ご当地キャラクター
「くぼっち」のダンス
深川葵太鼓

午後七時
午後七時半

「神々への響き」
浦安の舞奉奏
奉納演芸大会
(五町会婦人部)

夜店と杜もりのビアガーデン

十三日(土)・十四日(日)開催
午後0時〜9時迄

神社境内にて百席の飲食所設置

蛇窪へびくぼの「くぼっち」登場!

蛇の街にご当地キャラクター「くぼっち」が誕生いたしました。鎌倉時代に蛇窪に生息していた蛇の主。自称公家。ブサイクで気位が高く、お祓いの棒「カシコメ」を持っている。ふてくされているように見えるが、お願いすれば頭を「カシコメ」でお祓いしてもらえます。「くぼっち」は上神明天祖神社のお祭りや、地元イベントなどに呼ばれば喜んで出現致します。



蛇窪村とは

昔、現在の二葉、豊町、戸越、西大井の一部は、蛇窪村と言われていました。正保年間（一六四四年）蛇窪村が、上蛇窪村と下蛇窪村に分かれ、その後昭和七年十月に東京市内編入の際、氏神である神明社（現在の天祖神社）に因んで町名が上神明町、下神明町に改名されました。それから昭和十六年四月の町内整備により豊町と二葉町とに再編成された。
また、昭和十一年一月一日東急大井町線「蛇窪駅」が現在の「戸越公園駅」に改称されました。

奉納演芸大会について 各町婦人部長様のお言葉

いよいよ秋祭りの季節です。毎年祭りのお世話と神社の演芸大会のためにご苦労なさっておられる婦人部長様より一言コメントをいただきました。

— 心に残るお祭りに —

二葉三丁目婦人部長 深津 範子

子供の頃から、祭りばやしが聞こえてくると胸がワクワクしたものでした。子育ての頃は一緒に山車を引き、今では町内の子供達を見守り、大人神輿の威勢の良い声に誘われて手拍子で応援しています。

地元を愛し、多くの人達によって伝えられてきた人と人との繋がりを大切にし、上神明天祖神社例大祭のお役目を微力ながら務めさせて頂きます。又、奉納演芸大会では、日頃より練習を重ねてこられた出演者に感謝し、皆様に祭りの夜を楽しんで頂きたいと願っております。厳しい暑さも去り、祭りと共に清々しい秋風を楽しみに例大祭が無事に行われます様祈願しております。

— 奉納演芸を末永く —

二葉四丁目婦人部長 染野 豊美

今年も異常気象による水害、竜巻と各地で爪痕を残しています。国内の情勢も変わりつつあり、なにかと心穏やかではありませんが時は秋へと向かっています。日中の残暑は厳しくても

日が暮れば涼風と共に虫の鳴き声が響きます。子供達が待ち望んでいた例大祭も、まもなく執り行われます。神輿に山車と行く先々で元気な掛け声を振りまいてねり歩きます。灯りの点つた神輿を向えれば一気に祭りも盛り上がりです。宵の宮では金魚すくいに焼きいかの香り。お神楽、演芸と続けば夜は更けて行きます。この奉納演芸においては日頃より芸を磨いておられる方々、この日の為に練習を重ねていらした方々、ご指導を賜った先生方、舞台の袖でお手伝いをして下さる全ての方に感謝致します。天候に恵まれ皆様方に楽しんで頂ける事を願います。このささやかな楽しみを穏やかな暮しと共に続く事を祈ります。

— 奉納演芸について —

豊町五丁目婦人部長 大橋規久子

今年も昨年同様に台風が多い年となり、各地でも水害や土砂崩れなどの被害が出ています。災害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

朝夕の空気に秋の気配を感じる様になり、今年も例大祭が近づいてまいりました。今年の奉納踊りに参加して下さる方々、一生懸命にご指導して下さい下さる方々、練習に励んでいらっしゃる方々に感謝し、天候に恵まれ無事に例大祭が行われる事をお祈り申し上げます。

— お祭りに向けて —

豊町六丁目婦人部長 黒河内真由美

残暑が厳しい毎日ですが、朝夕の風は涼しく、

夕方の空にはいわし雲が広がり、夜は鈴虫が鳴き、少しずつ秋が近づいてきているのだと感じます。

秋といえば、例大祭も近づいてまいりました。毎年、奉納演芸大会を楽しみに拝見していましたが、今年はお手伝いする側となり大変緊張しております。ですが、これも何かの縁、精一杯務めて参りたいと存じます。

長い歴史のある例大祭、天候に恵まれ無事に Rowe れますことを心よりお祈り申し上げます。

— 祭りを迎えるに当たり —

戸越六丁目婦人部長 井瀧 良子

猛暑の日が続く一方では、大雨・台風十一号のダブルパンチに依り、大変な被害を受けた各地の方々には、心よりお見舞い申し上げます。楽しみにしておりました、例大祭の季節がやってきました。

各町会の神輿、山車、太鼓の音、多くの人達の歓声と共に、町の中での御芳志を頂く、子供達の笑顔を見るたびに、感謝の念をいただかずにはおられません。

夜の奉納演芸大会は各町会の方々の努力の成果が発揮されることでしょう。

天候に恵まれ、無事に終了することをお祈り申し上げます。

月次祭

毎月一日午前七時より、その月の氏子の皆様の家内安全を祈る月次祭を行っております。当日は御神前にて祭儀を厳修し参列者一同で「大祓詞」を奉唱し、玉串を捧げます。式典後、社務所にて「朝粥」を食し歓談いたします。

★七月一日に参列なさった方々のご芳名

草柳洋一様、矢羽直公様、金子省太郎様、磯 昭夫様、川瀬次夫様、谷川 寛様、高須みちよ様、青柳富子様、富田登美子様、柵木ヒサ様、井瀧良子様、柴田よし子様、工藤秋光様

★八月一日に参列なさった方々のご芳名

草柳洋一様、金子省太郎様、磯 昭夫様、川瀬次夫様、谷川 寛様、富田登美子様、高須みちよ様、柵木ヒサ様、青柳富子様、井瀧良子様、井口康行様、井口依子様、白土政枝様、工藤秋光様



生命の言葉(九月)

父母はわが家の神わが神と

心つくしていっつけ人の子

本居宣長

生命を与えてくださった父母に感謝し、神様のように心を尽くして大切にしなければならぬ。

本居宣長(もとおりのりなが)

一七三〇〜一八一〇年。江戸時代後期の国学者。伊勢松阪出身。医学を業とするかたわら、古典の研究に力を尽くし、『古事記』の注釈書である『古事記伝』を完成させて古典研究の水準を飛躍的に高めました。また儒教や仏教などの外来思想を排して日本古来の心を提唱し、古典の研究を通じて日本の古道について思索を深めました。

東京都神社庁

つもりちがい 十ヶ条

高いつもりで	低いのが教養
低いつもりで	高いのが気位
深いつもりで	浅いのが知識
浅いつもりで	深いのが欲望
厚いつもりで	薄いのが人情
薄いつもりで	厚いのが面の皮
強いつもりで	弱いのが根性
弱いつもりで	強いのが自我
多いつもりで	少ないのが分別
少ないつもりで	多いのが無駄

各地区敬老クラブの境内清掃奉仕

毎月十日は各地区敬老クラブの方々による境内清掃奉仕が行われております。七月十各地区より皆様が集まり境内の清掃奉仕をなさって下さいました。誠に有難うございます。

七月十日御奉仕の方々のご芳名

豊町六丁目 岡村 幸子様、原野 孝通様
 豊町五丁目 塚田サチ子様、浜野スミ子様
 二葉四丁目 片岡 トミ様、眞川 功四郎
 二葉三丁目 小暮 照子様、高橋 敦子様
 戸越六丁目 酒井レイ子様



天祖神社々務所

〒一四二一〇〇四三

東京都品川区二葉四一四一十二

TEL 〇三(三七八)二七二一

FAX 〇三(三七八)一七一

http://www.蛇窪.jp